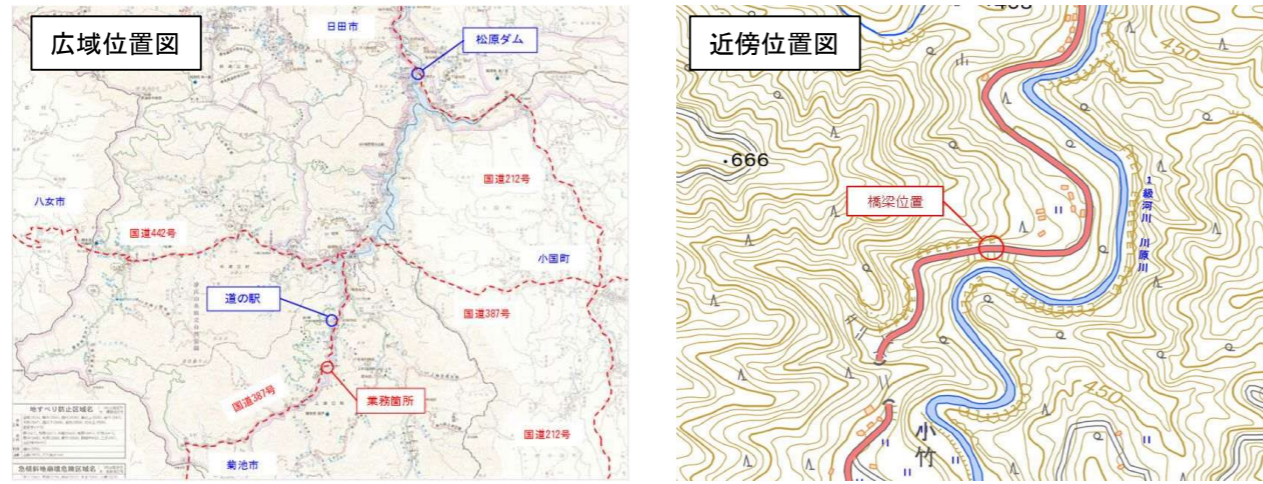


設計段階における三者協議結果資料 国道387号 豆生野拡幅

位置図



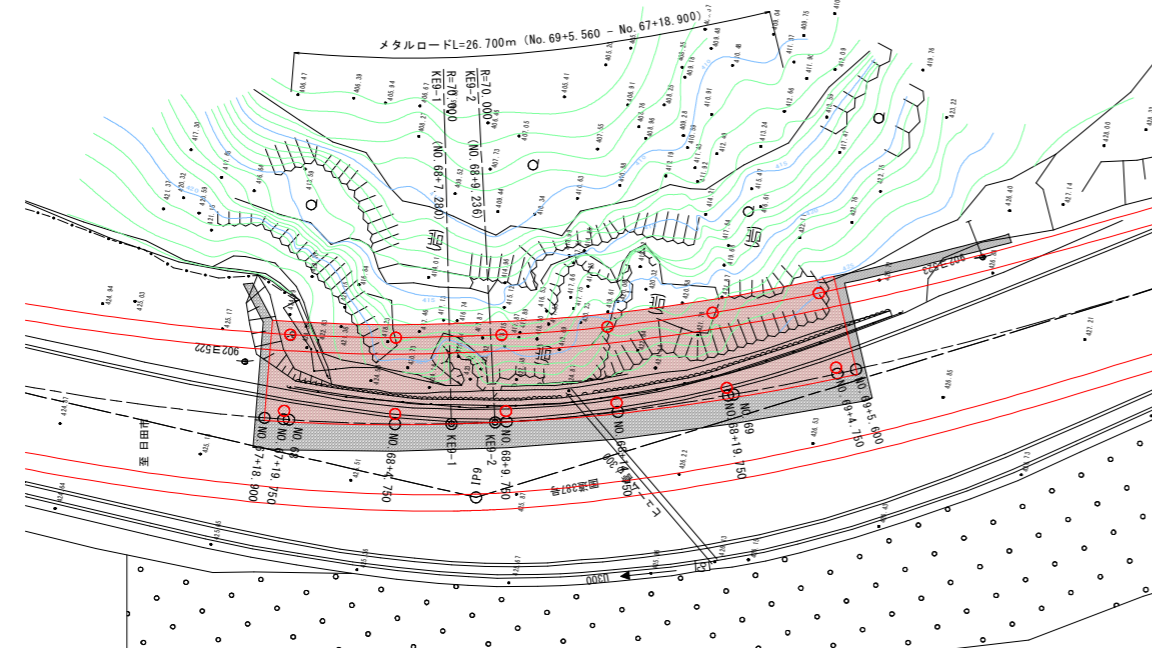
主な課題・制約条件(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- 施工ヤード面積はクローラークレーン50t吊りの分解・組立所要スペースを目安に計画する。
- 施工順序は縦断勾配の高い方(終点側)から行う計画である。
- 施工時、橋梁架設区間及び施工ヤード区間は国道387号の交通規制(片側交互通行)を行う。
- 橋梁架設位置の起終点側において電柱が確認される。また、施工ヤードと交差する架空線も位置する。電柱の移設の際に架空線の影響範囲を考慮する必要がある。
- 重機出入口の重力式擁壁は重機の荷重で壊れる恐れがあるため、覆工板を置いて対策を行う必要がある。
- 鋼管杭の延長が長い場合は分割して運搬する。鋼管杭は一体(1本物)として建て込みを行う計画のため、施工ヤードでの溶接継手(横継ぎ)が必要である。
- もたれ式擁壁は床版工の施工後に実施する。もたれ式擁壁を先行施工すると杭頭ブロックの溶接や桁塗装の作業が困難である。

設計条件

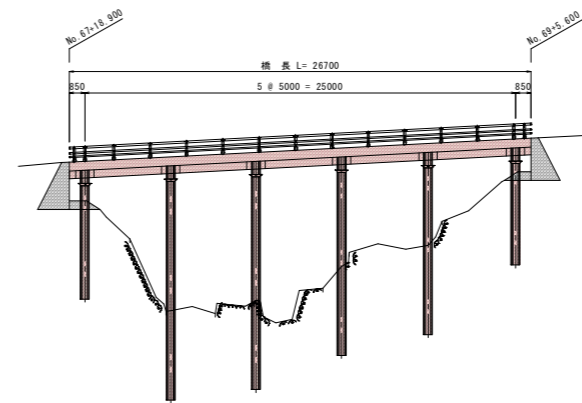
- 道路区分:第3種第4級
- 計画幅員:W=7.0m(車道:2.750m 路肩:0.750m) 歩道無し
- 設計速度:V=40km/h
- 計画交通量:1,500台/日(H42交通量推計より)

平面図

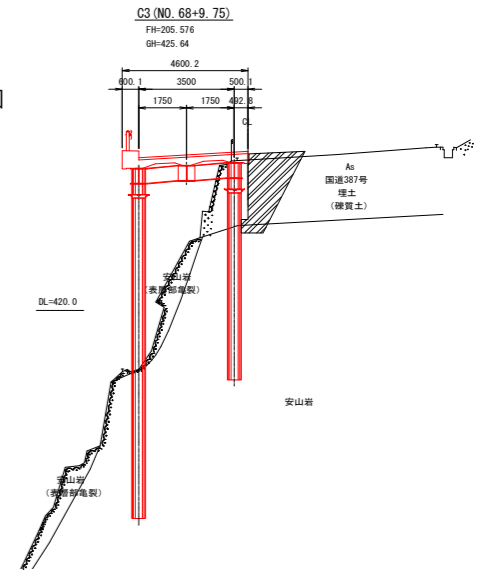


標準図

○側面図



○断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項

- 施工期間中の交通規制に伴う、車道幅員確保が必要
→側溝に仮排水管を埋設し、仮舗装を行ったうえで車道幅員の確保を行う計画とする。
- もたれ式擁壁の施工まで期間が空く場合、床掘法面の浸食(雨水による)を考慮すること
→法面保護として床掘法面に吹付を検討する。
- 急傾斜面における残土処分について対策が必要。
→谷側に支保工を行いせき板にて土砂の流出を防ぎ搬出を行う計画とする。

○確認事項

- 施工ヤード内で大型重機の分解・組立を行うことが可能か
→クレーン配置を確認して、分解・組立が可能な施工ヤードを確保している。
- 重機の取り回しを加味した電柱位置の移設検討と架空線の取合いが必要
→クレーン最小旋回距離+離隔距離2mを確保する移設計画としている。
- 重機出入口の重力式擁壁への配慮。重機の荷重で壊れる恐れがあるため、対策が必要
→設計計算を行い必要に応じて対策を講じる。
- もたれ式擁壁は床版工の施工後となるため、作業スペースの確保が必要
→狭隘部(鋼管杭位置)における型枠設置について施工性を考慮した計画としている。